

「地域再エネ」の体制づくり ～構想から実装へ～

兵庫県における実践事例からの示唆

田中 勇伍

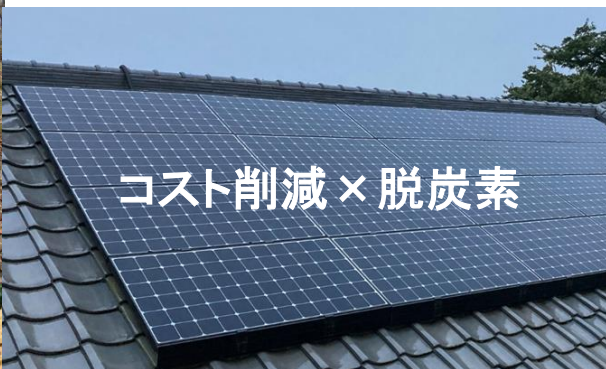
研究員、関西研究センター



「地域再エネ」



里山保全×脱炭素



コスト削減×脱炭素



糞尿処理×脱炭素



農の持続×脱炭素



ため池維持管理×脱炭素

写真出典

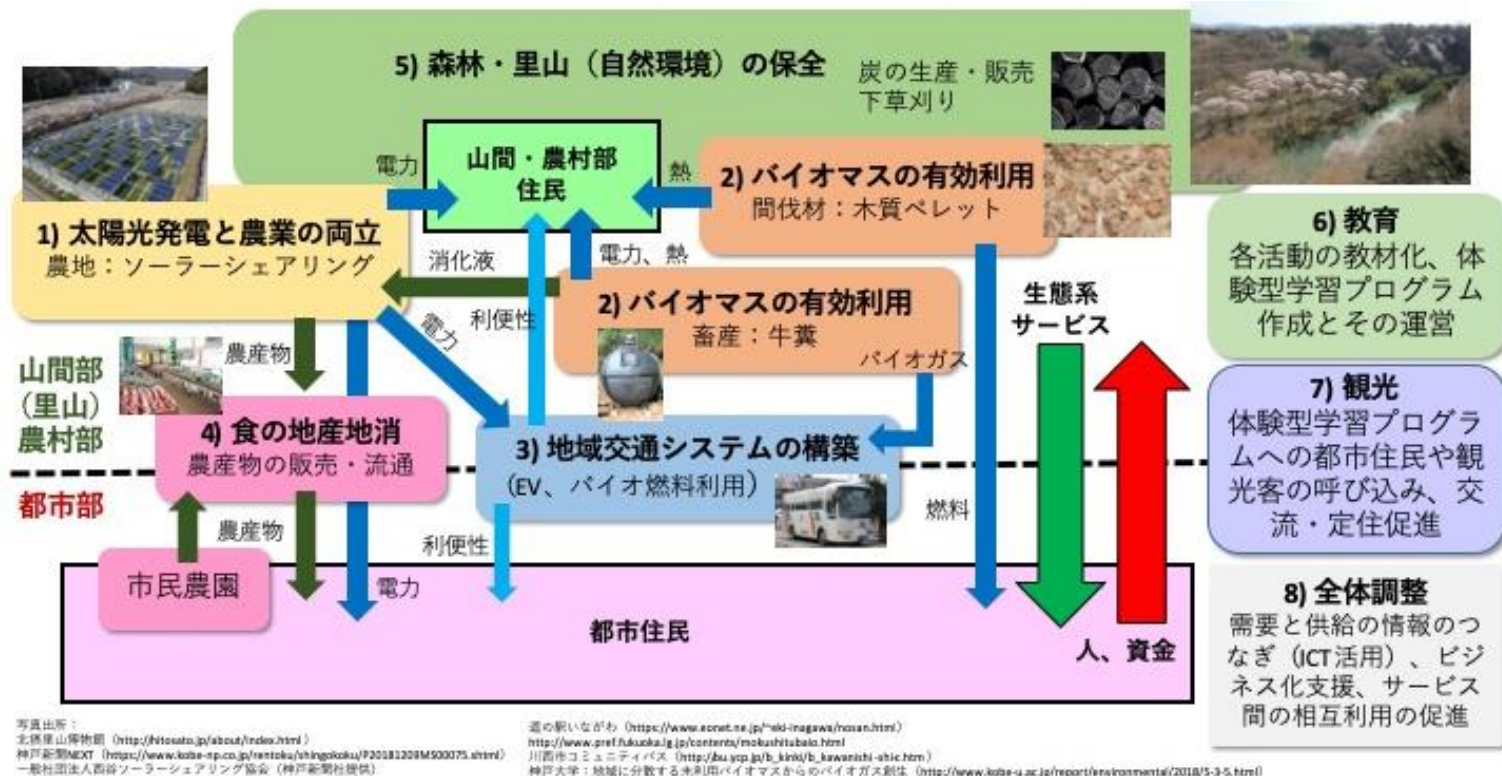
(左上) NPO法人北摂里山文化保存会

(右上) 一般社団法人西谷ソーラーシェアリング協会

(左下) 弓削牧場の小型バイオガスユニット

(右下) 松田養鶏所中央池太陽光発電所

北摂里山地域循環共生圏構想



IGES

全体調整

宝塚市

猪名川町

川西市

三田市

兵庫県阪神北県民局

兵庫県農政環境部温暖化対策課

主な活動の

対象地域

西谷
地区

中谷
地区

東谷
地区

主な活動

地域の核となる団体

1) 太陽光発電と農業の両立

宝塚すみれ発電、生活協同組合
コープこうべ

2) バイオマスの有効利用

県有環境林(西谷自治振興)、
国崎クリーンセンター啓発施設

3) 地域交通システムの構築

能勢電鉄

4) 食の地産地消

甲子園大学栄養学部フードデザイ
ン学科、兵庫六甲農業協同組合

5) 森林・里山の保全

NPO北摂里山文化保存会、
各種環境NGO、森林ボランティア

目指したい地域の姿: 自然環境(里山)保全をベースにした
食料とエネルギーの自給自足、山間・農村部と都市部間の人と資金の還流

魅力的で持続性の高い脱炭素循環型社会

「地域再エネ」の構想

地域の担い手が
再エネを導入する

地域のための再エネ
＝行政の旗振り

「地域再エネ」の構想と現実

地域の担い手が
再エネを導入する



構想は美しいが・・・
誰がやるの？問題

地域のための再エネ
＝行政の旗振り



行政計画に掲げたが・・・
具体化段階では行政がブレーキ

様々な実践的取組で直面したコスト以外の地域再エネの課題例

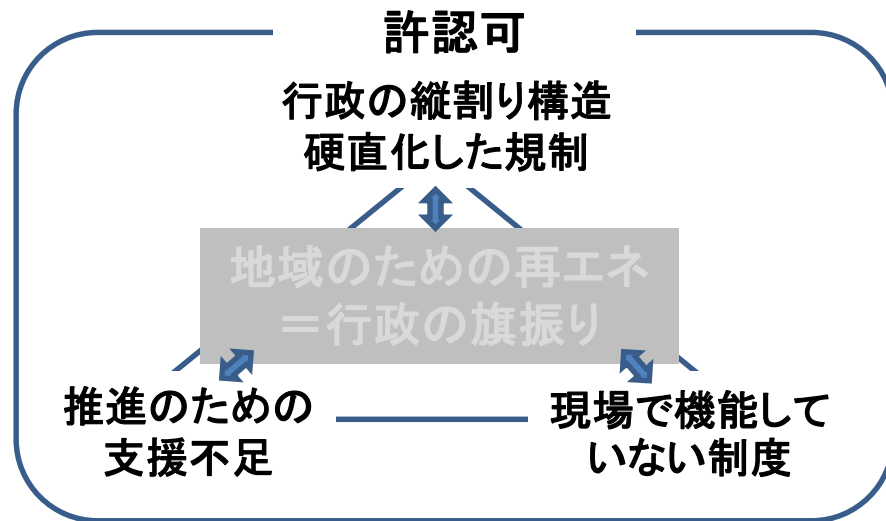
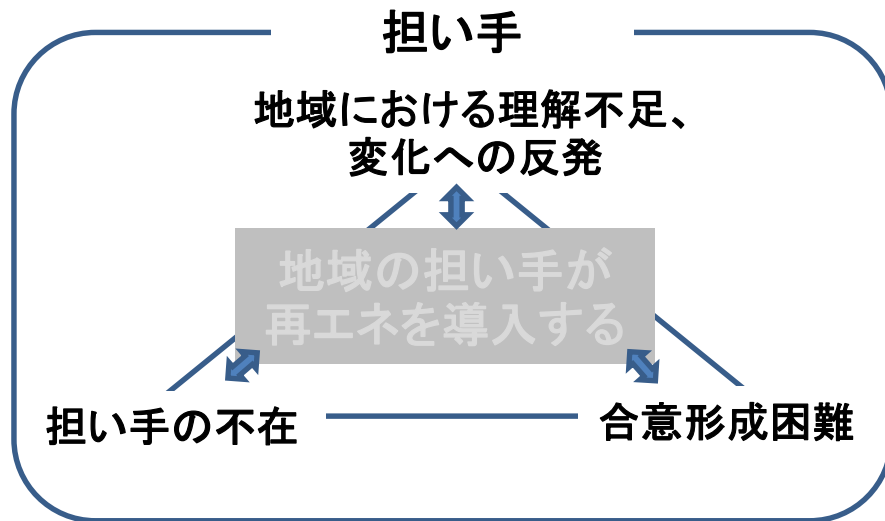
再エネ種別	担い手の課題	許認可の課題
間伐材活用による バイオマス熱利用	間伐材の切出し、燃料への加工	森林経営計画、廃棄物処理法上の認定、チップー用地
自家消費型太陽光発電	関心の低さ、 初期投資不要＝与信の壁	
優良農地での ソーラーシェアリング	長期営農継続、地権者等の合意が前提	農地一時転用許可、場合により隣接地権者の同意
耕作放棄地での ソーラーシェアリング	そもそも耕作者がいない	調査未了により最新の状況を把握できないことも
荒廃農地での野立太陽 光発電導入	日当り・アクセス悪く事業性に懸念	地籍調査未了で非農地判断ができないことも
ため池での水上 ソーラー	所有者・管理者・周辺住民などの合意形成が必要	ため池法に基づく防災改修工事の際は撤去が必要

地域再エネの課題構造(試論)

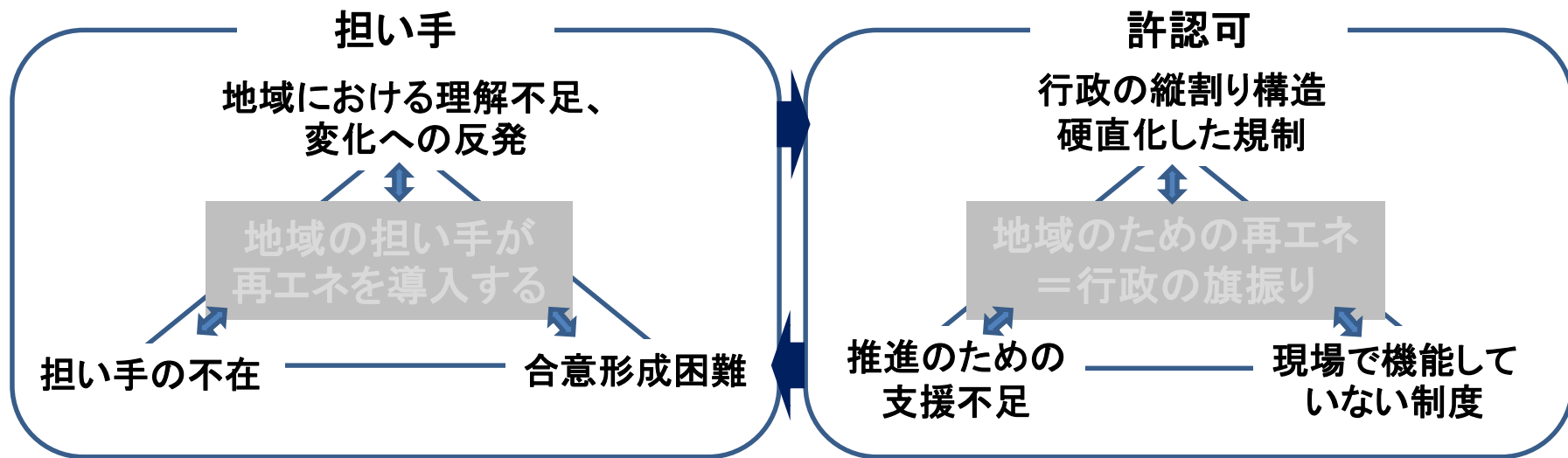
地域の担い手が
再エネを導入する

地域のための再エネ
＝行政の旗振り

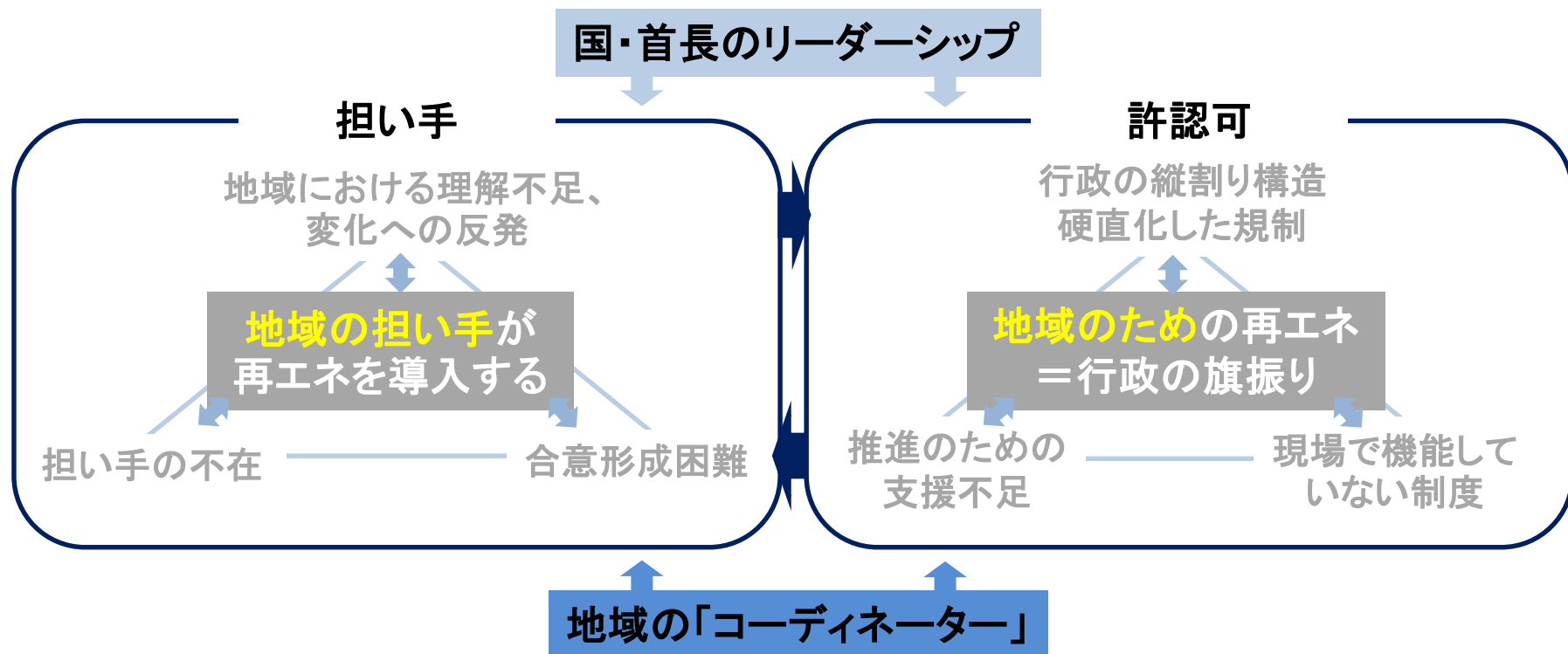
地域再エネの課題構造(試論)



地域再エネの課題構造(試論)

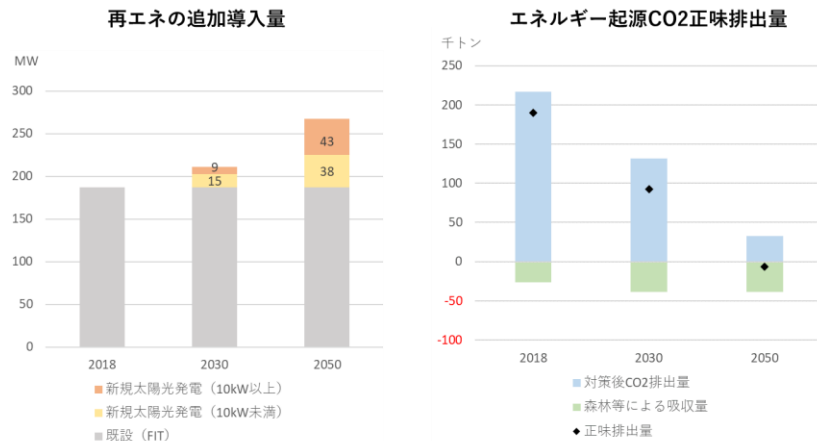


地域再エネの課題構造と打開策(試論)



淡路市再生可能エネルギー導入促進検討事業(R3-R4)

①カーボンニュートラルの実現に向けた目標設定



②農地・ため池有効利用のための合意形成

現地関係者ヒアリング
合意形成

行政当局との調整
合意形成



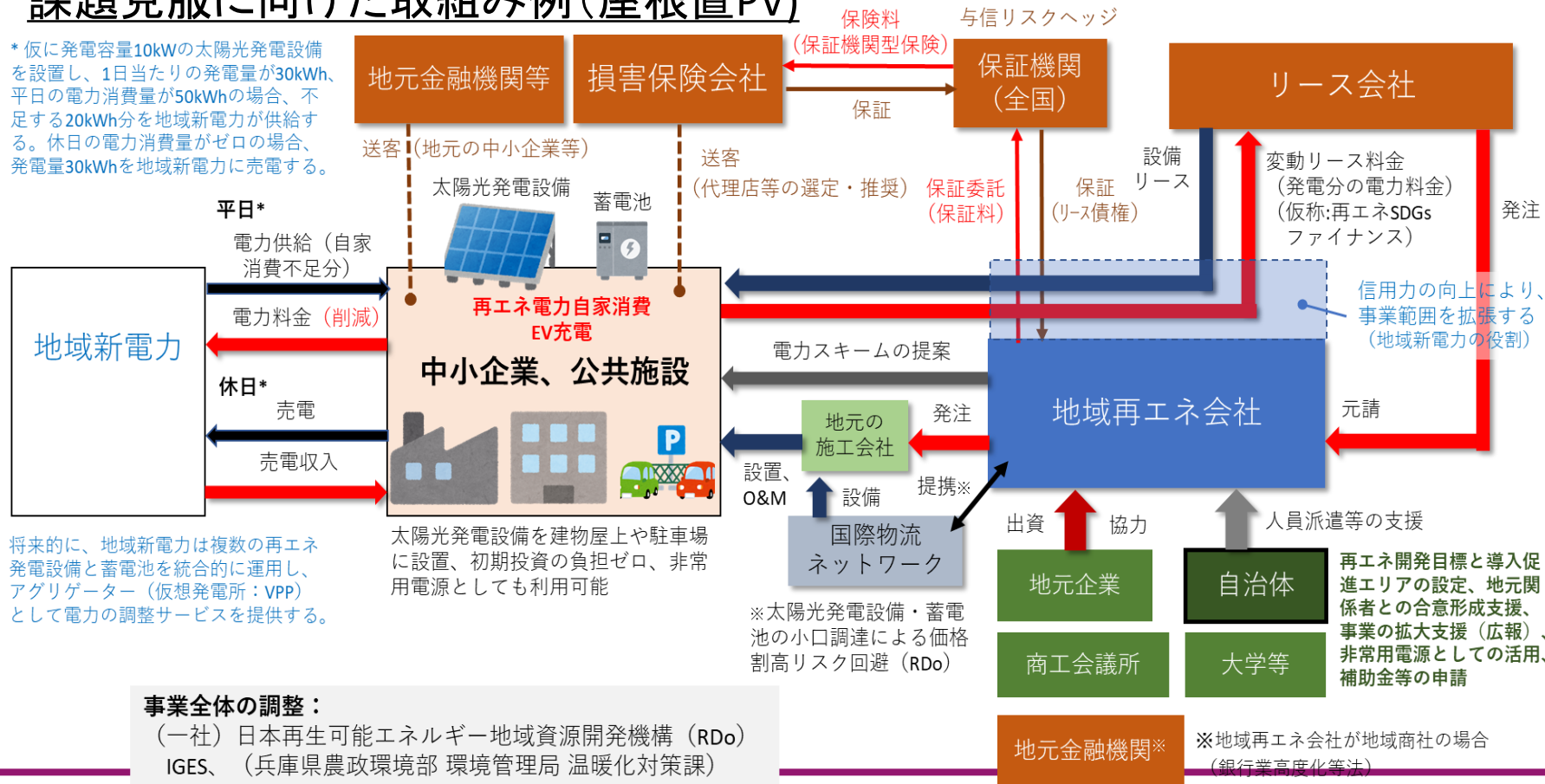
データ分析・
有識者ヒアリング

事業スキーム構築
モデル事業等斡旋

③合意形成を踏まえたゾーニング、 脱炭素に向けたロードマップ策定

課題克服に向けた取組み例(屋根置PV)

* 仮に発電容量10kWの太陽光発電設備を設置し、1日当たりの発電量が30kWh、平日の電力消費量が50kWhの場合、不足する20kWh分を地域新電力が供給する。休日の電力消費量がゼロの場合、発電量30kWhを地域新電力に売電する。



まとめ：地域・都市が主役の脱炭素化に向けた体制づくり

